

1. 基本情報

基本目標	2	学び合い、志を育むまちづくり	担当部	教育委員会
基本施策	1	あいさつ・感謝・志を柱とした学校教育の推進		
単位施策名称	1	社会を生き抜く力の育成		
施策の方向性	●「知・徳・体」のバランスのとれた「基礎・基本」の定着として、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を図り、生涯にわたる学びの基盤を身に付けた児童生徒を育成します。 ●課題発見・解決学習の推進により、主体的な学びを促進し、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力を身に付けた児童生徒を育成します。			

2. 施策目標（施策指標）

No.	目標指標	単位	区分	計画策定時の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	中期目標(R2)
1	全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の結果（小学校）	ポイント	目標値		県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0
			実績値	県平均+2.4	県平均+4.1	県平均+5.3	県平均+3.8		
			達成状況		未達成	達成	未達成		
2	全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の結果（中学校）	ポイント	目標値		県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0
			実績値	県平均+3.6	県平均+2.1	県平均+3.3	県平均+3.0		
			達成状況		未達成	未達成	未達成		
3	広島県「基礎・基本」定着状況調査の教科の学習内容の定着状況（小学校）	ポイント	目標値		県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0
			実績値	県平均+6.0	県平均+5.6	県平均+4.1	不明		
			達成状況		達成	未達成	不明		
4	広島県「基礎・基本」定着状況調査の教科の学習内容の定着状況（中学校）	ポイント	目標値		県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0	県平均+5.0
			実績値	県平均+3.8	県平均+3.5	県平均+3.6	不明		
			達成状況		未達成	未達成	不明		

3. 評価と対応方針（部長評価）

・分析

（施策目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

小・中学校とも未達成となりました。令和元年度に行う次期府中町教育振興基本計画の策定に合わせて、要因を分析し、改善を図る必要があります。
なお、広島県「基礎・基本」定着状況調査は、見直しのため平成30年度から休止しています。

・評価及び対応方針

目標値達成を目指しつつ、課題発見・解決学習の推進により、主体的な学びを促進し、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力を身に付けた児童生徒を育成します。

作成担当部長 教育部長 榎並 隆浩

4. 今後の展望（評価会議最終評価）

目標値未達成ですが、目標値到達率は60%を超えています。分析内容に留意しつつ、引き続き目標値の達成を目指し、現在の方向性で施策を継続することとします。

【参考】施策の推進に要したコスト

(単位:千円)

区分		No.	事業名称	事業費
施策の成果を 押し上げる 事業	事務事業計画	1	小中連携教育充実事業	10,389
		2	体験活動推進事業	681
		3	学校図書館教育充実事業	11,307
		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
		9		
		10		
		11		
		12		
		13		
		14		
		15		
		16		
		17		
		18		
		19		
		20		
施策の成果を 維持する事業	財政計画	1	教育一般事務事業	15,142
		2	小学校教育振興一般事務事業	12,653
		3	中学校教育振興一般事務事業	13,413
		4	学校 I C T 環境整備事業	68,446
		5		
		6		
		7		
		8		
		9		
		10		
		11		
		12		
		13		
		14		
		15		
		16		
		17		
		18		
		19		
		20		
合計				132,031

平成30年度 事務事業評価シート（評価）

1. 基本情報

事務事業の名称	小中連携教育充実事業	事業番号	211101
担当部署名	教育委員会	学校教育課	
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 あいさつ・感謝・志を柱とした学校教育の推進		
単位施策	1 社会を生き抜く力の育成		

2. 事業概要

効果的な指導方法等の工夫・改善を行うため、小中学校教職員が共同で実施する研究活動において、先進校視察や講師招聘等を取り入れることにより、更なる児童生徒の「基礎・基本」の学力の定着を図ります。

3. 活動計画・活動実績

活動計画	活動実績
○ 児童生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するため、小中学校の教職員が、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた系統性を踏まえた教育課程を理解し、授業改善を図る研修会を実施します。 ○ 非常勤講師の活用により、少人数指導やチームティーチング等、個に応じたきめ細かい指導を行います。 ○ 成果と課題を確認するための学力調査を行い、次への改善につなげるマネジメントサイクルによる研究を推進します。	○ 小中学校教職員が共同で実施する研究組織による研修会を、各中学校区で実施しました。 ○ 中学校非常勤講師の活用により、授業改善を推進しました。 ○ 学力調査の実施により、授業改善の成果を確認しながら、新たな課題を発見し、継続的に改善を進めることができました。

4. 事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
①	主体的に学ぶ児童の割合 (小学校)	%	目標値	80.1	80.3	80.5	80.7	81.0
			実績値	80.1	82.4	82.2		
			達成状況	達成	達成	達成		
②	主体的に学ぶ生徒の割合 (中学校)	%	目標値	65.9	66.2	66.5	66.8	67.0
			実績値	67.6	68.4	74.1		
			達成状況	達成	達成	達成		
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法		小中学校教職員が共同で実施する研究活動成果を生かし主体的な学びを促進するため、主体的に学ぶ児童・生徒の割合を指標としました。						

5. コスト情報

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
当初予算	16,339	0	0	0	0	16,339
決算	10,389	0	0	0	0	10,389

6. 評価と対応方針（課長評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

小中学校教職員が共同で実施する研究組織による研修会を各中学校区で実施し、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた系統性を踏まえた教育課程を理解し、授業改善を進めたことにより、目標を達成しました。

・評価

事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続
------	---	------	---	--------	------

・評価を踏まえた対応方針

教科間の連携、カリキュラムマネジメントの充実のためには必要な事業です。教育の質の向上、業務改善の視点から各中学校区での研修会を隔年実施とします。

作成担当課長

学校教育課主幹兼学校支援室長 畑尻 佳括

7. 評価と対応方針（部長評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

中学校の生徒の主体的に学ぶ割合が小学校の児童に比べ低いことから、教科指導と生徒指導の一体的な指導方法等に係る実践的な研究を共同で実施した結果、中学校での授業改善が進み、主体的に学ぶ生徒の割合が上昇しました。義務教育9年間の系統的な教育課程実施には必要な事業です。

・評価

事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続
------	---	------	---	--------	------

・評価を踏まえた対応方針

引き続き、教科間の連携やカリキュラムマネジメントの充実が必要です。

作成担当部長

教育部長 榎並 隆浩

8. 今後の展望（評価会議最終評価）

今後の方向性	事業継続
方向性を踏まえた今後の展望	目標値を達成しています。引き続き目標値の達成を目指し、事業を継続することとします。

平成30年度 事務事業評価シート（評価）

1. 基本情報

事務事業の名称	体験活動推進事業	事業番号	211102
担当部署名	教育委員会	学校教育課	
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 あいさつ・感謝・志を柱とした学校教育の推進		
単位施策	1 社会を生き抜く力の育成		

2. 事業概要

小学校5年生を対象に、3泊4日の宿泊体験活動を引き続き行い、児童の豊かな心の育成や、課題発見・解決学習能力の育成に取り組みます。

3. 活動計画・活動実績

活動計画	活動実績
○ 豊かな人間性や社会性を育み、自己有用感を高め、志を持ち社会で生き抜く児童生徒を育成するため、小学校5年生を対象に3泊4日の宿泊体験活動（「山・海・島」体験活動“ひろしま全県展開プロジェクト”）を継続して実施します。	○ 豪雨災害のため自然の中での集団宿泊活動は実施できませんでしたでしたが、防災教育の視点を取り入れた体験活動を実施するなど、各校で工夫を凝らした活動を実施しました。

4. 事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
①	自分にはよいところがあると思える児童の割合	%	目標値	81.0以上	81.0以上	81.0以上	81.0以上	81.0以上
			実績値	78.4	81.2	92.1		
			達成状況	未達成	達成	達成		
②			目標値					
			実績値					
			達成状況					
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法		体験活動を通して豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成の成果として「自分にはよいところがある」と思える児童の割合を指標としました。						

5. コスト情報

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
当初予算	976	0	0	0	0	976
決算	681	0	0	0	0	681

6. 評価と対応方針（課長評価）

・ 分析 （事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等） 「自分にはよいところがある」と思える児童の割合が年々上昇しています。今後も体験活動を通して、豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図る必要があります。											
・ 評価 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 16.6%;">事業効果</td> <td style="width: 16.6%;">高</td> <td style="width: 16.6%;">事業改善</td> <td style="width: 16.6%;">低</td> <td style="width: 16.6%;">今後の方向性</td> <td style="width: 16.6%;">事業継続</td> </tr> </table>						事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続
事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続						
・ 評価を踏まえた対応方針 事業を継続し、豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成に努めます。また、防災教育の視点を取り入れるなど、学校の教育課程と連携し、体験活動の内容の充実を図ります。											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 16.6%;">作成担当課長</td> <td colspan="5">学校教育課主幹兼学校支援室長 畑尻 佳括</td> </tr> </table>						作成担当課長	学校教育課主幹兼学校支援室長 畑尻 佳括				
作成担当課長	学校教育課主幹兼学校支援室長 畑尻 佳括										

7. 評価と対応方針（部長評価）

・ 分析 （事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等） 自己肯定感の割合が大きく上昇しています。自己肯定感を育むには、一人一人が自らの課題を乗り越えつつ、他者と協働して何かを成し遂げる機会を体験活動の中に組み込んでいくこと等が大切であり、自己肯定感と体験活動には相関関係があるものと考えます。今後も体験活動を通して、豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図る必要があります。											
・ 評価 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 16.6%;">事業効果</td> <td style="width: 16.6%;">高</td> <td style="width: 16.6%;">事業改善</td> <td style="width: 16.6%;">低</td> <td style="width: 16.6%;">今後の方向性</td> <td style="width: 16.6%;">事業継続</td> </tr> </table>						事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続
事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続						
・ 評価を踏まえた対応方針 防災教育の視点を取り入れるなど、引き続き、学校の教育課程と連携し、体験活動の内容の充実を図ります。											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 16.6%;">作成担当部長</td> <td colspan="5">教育部長 榎並 隆浩</td> </tr> </table>						作成担当部長	教育部長 榎並 隆浩				
作成担当部長	教育部長 榎並 隆浩										

8. 今後の展望（評価会議最終評価）

今後の方向性	事業継続
方向性を踏まえた今後の展望	目標値を達成しています。引き続き目標値の達成を目指し、事業を継続することとします。

平成30年度 事務事業評価シート（評価）

1. 基本情報

事務事業の名称	学校図書館教育充実事業	事業番号	211103
担当部署名	教育委員会	学校教育課	
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 あいさつ・感謝・志を柱とした学校教育の推進		
単位施策	1 社会を生き抜く力の育成		

2. 事業概要

学校図書司書の配置、図書購入による蔵書の整備等を行い、小中学校図書館教育の充実に努めます。

3. 活動計画・活動実績

活動計画	活動実績
○ 豊かな感性や情操を育む読書センターの機能、児童生徒が自ら学ぶ学習情報センターの機能を充実させ、児童生徒の望ましい読書習慣の形成を図るとともに、主体的な学習を推進します。 ○ 図書司書を配置し、学校図書館の機能を充実を図ります。 ○ 図書システムを新たに更新し、図書の活用を促進します。	○ 豊かな感性や情操を育む読書センターの機能、主体的な学びを促進するための学習情報センターとしての図書館の機能を充実させるため、学校図書司書を、小学校2名、中学校1名、1校あたり週15時間配置しました。 ○ 図書館システムの更新を行い、図書の活用を促進しました。

4. 事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
①	1か月に3冊以上本を読む児童の割合(小学校)	%	目標値	72.3	72.5	72.7	72.9	73.0
			実績値	72.0	65.7	67.2		
			達成状況	未達成	未達成	未達成		
②	1か月に3冊以上本を読む生徒の割合(中学校)	%	目標値	31.0	32.0	33.0	34.0	35.0
			実績値	38.6	39.5	32.4		
			達成状況	達成	達成	未達成		
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法		図書館資料を利用することにより健全な教養を育成することが目的のため、1か月に3冊以上本を読む児童・生徒の割合を指標としました。						

5. コスト情報

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
当初予算	11,511	0	0	0	0	11,511
決算	11,307	0	0	0	0	11,307

6. 評価と対応方針（課長評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

事業目標は小学校、中学校ともに達成できませんでした。朝読書の時間に代わって「ふちゅうEタイム」が実施されるなど、読書時間の確保が難しくなっていることが要因と考えられます。また、夏休みの図書館開放について、学年による利用時間の制限などを取りやめ、利用の推進を図りましたが、利用の増加には至りませんでした。

・評価

事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続
------	---	------	---	--------	------

・評価を踏まえた対応方針

家庭や地域との連携等により、読書の習慣づけを図る取組の活性化や、授業における学校図書館の活用拡大を図ります。夏休みの図書館開放については利用の増加は見込めないため廃止します。

作成担当課長

学校教育課主幹兼学校支援室長 畑尻 佳括

7. 評価と対応方針（部長評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

事業目標は小学校、中学校ともに達成できませんでした。朝読書の時間に代わって「ふちゅうEタイム」が実施されるなど、読書時間の確保が難しくなっていることが要因と考えられます。

・評価

事業効果	高	事業改善	低	今後の方向性	事業継続
------	---	------	---	--------	------

・評価を踏まえた対応方針

府中小学校の魅力的な図書コーナーの設置など、各小中学校とも読書の啓発や習慣づけを図る取組が必要です。

作成担当部長

教育部長 榎並 隆浩

8. 今後の展望（評価会議最終評価）

今後の方向性	抜本的な見直し
方向性を踏まえた今後の展望	目標値未達成です。事業は継続するものの、費用対効果を考え方向性を抜本的に見直すとともに、事業のあり方について再検討することとします。